



奈良県宇陀市
観光基本計画

Uda City, Nara
Tourism Plan

- 目次 -

本観光基本計画では、できるだけ多くの方が理解しやすいように文書と図式、用語解説を入れています。文書は、できるだけ平易な言葉を使いますが、専門用語を使っている箇所については用語解説を備えるなど、読みやすさの配慮をしています。また、本観光基本計画の説明を図式化することで、より理解を深めることができます。まずは、目次にて本観光基本計画の構成を示します。

用語解説

はじめに

第1章

宇陀市の概要

第2章

宇陀市の観光の現状と課題

第3章

宇陀市の観光材分析

第4章

観光振興の基本的な考え

第5章

観光振興の戦略

第6章

観光ブランディングの設計と
実現していくための具体的事業の展開

さいごに

- 本観光基本計画を読む前に -

本観光基本計画は、観光を専門とする者だけでなく、広く観光に興味を持つ人々にもできるだけ伝わりやすい構成を目指しました。そのため、ここでは本観光基本計画に使われている用語の解説を事前にまとめています。

(1) 各章ごとの解説

本観光基本計画で使う用語を説明します。

項 目	用語解説
*観光材	本書では、観光振興に関わる全ての資源、または、関係する可能性の高い資源、観光振興に関係することを目的とした資源は全て「観光材」として総称する。 例えば、本市の地域資源である景観、文化施設、特産物など観光者が本市に訪れるきっかけとなるもの、その目的でつくられたもの、その可能性が高いものがあげられる。
*クラスター分析	異なる性質のものが混ざり合った集団から、互いに似た性質を持つものを集め、クラスターを作る方法です。
*ポジショニング分析	市場内における競合製品・競合ブランドと自社製品・自社ブランドの相対的な位置（ポジション）について、その関係を分析する方法です。
*SWOT分析	外部環境や内部環境を強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) の 4 つのカテゴリーで要因分析する方法です。
*ギャップ分析	理想と現実の差異を課題と捉え、理想を達成する為には何が必要かを分析する方法です。
*ハブ	中心・中核を意味し、ここでは情報や交通網の交通結節点を示します。
*ブランディング	共通のイメージをユーザーに持たせる手法の総称です。
*ブランド・アイデンティティ	自分たちのブランドの特徴を言語化、イメージ化するなど可視化して、誰からも認識されるようにすることです。
*マイルストーン	物事の進捗を管理するために途中で設ける節目を意味します。もとは道路などに置かれ、距離を表示する標識（里程標）のこと。
*PDCA	管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善) の 4 段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善するための方法です。

- 計画策定の背景・目的 -

奈良県東部の地方都市である本市を取り巻くさまざまな経済環境は年々厳しさをましています。2003年7月、国は観光立国を宣言し、国、地方自治体も経済活性化施策として観光振興を位置付けました。このような中、大きく注目されているのは「観光」と「まちづくり」の融合であります。一般的に以前は、外部から誘客する「観光」と内部の「まちづくり」は相反するものと考えられていましたが、近年そのふたつの考え方が、融合した「観光まちづくり」が主流となっています。そのような状況の中「宇陀市観光基本計画」の策定により、観光振興の柱となる観光計画を作成します。

(1) 宇陀市観光基本計画策定の背景

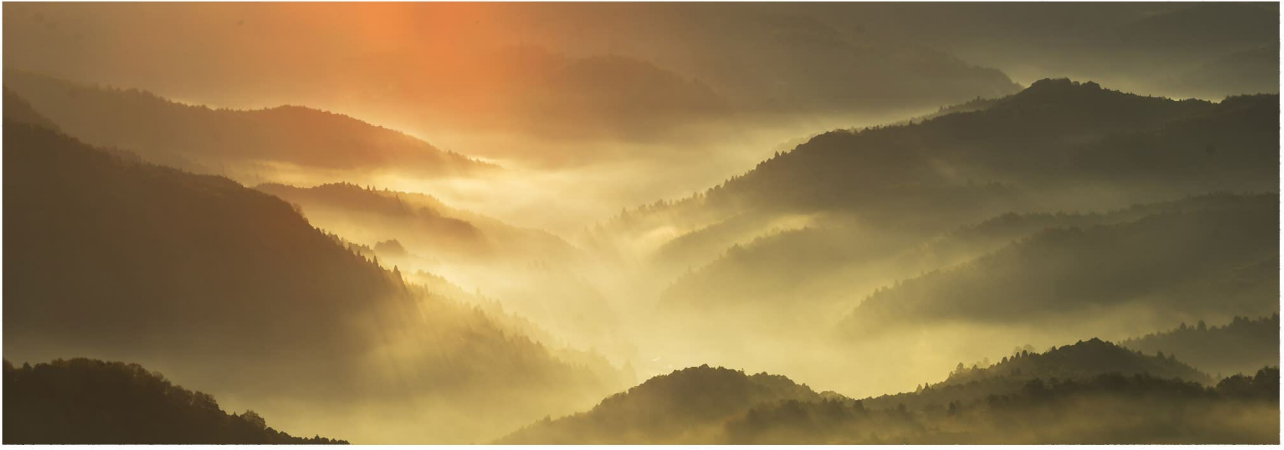
近年我が国では、地方都市をとりまくさまざまな状況が厳しくなっています。

中小企業業績の悪化、小売り産業の大規模化による個人商店の低迷など地域経済の悪化がつづき、急速な少子高齢化や労働人口の縮小、生産年齢世代の大都市への一極集中等、地方自治体の将来的な存続についても懸念されるほどの大きな課題となっています。この状況を打開するために、全国的にも「観光」が注目されています。宿泊業、飲食業、農業分野、各種関連サービス業など地域経済の幅ひろい波及効果、また住民の郷土愛の醸成機会の創出、「観光おもてなし力」の醸成、地域の活性化等さまざまな分野への効果波及が観光の振興に期待されています。「観光おもてなし力」の醸成は地域全体の総合力を高める効果や、個人の生涯学習力をも高めるといわれています。

次に本市の地域的特性を概観すると本市は奈良県の北東部に位置し、北は奈良市、山添村、西は桜井市、南は吉野町、東吉野村、東は曾爾村、三重県名張市に接し、総面積は247.62Km²で県全体の6.7%を占めています。近鉄大阪線によって、京都・大阪方面や名古屋・伊勢方面と結ばれています。また大阪方面から、自動車による本市へのアクセスは、名阪国道針インターチェンジと大阪・松原ジャンクション（西名阪自動車道）が約1時間で結ばれる距離にあります。

歴史が古い本市では非常に多くの歴史文化資源があり、全国から注目されています。その他、市内の多くの桜が全国的に有名であり石楠花とともに楽しむ「室生寺」、重要伝統的建造物群保存地区の「宇陀松山地区のまちなみ」などがあり、これらを目的に内外から絶えず多くの観光者が訪れています。また、本市では、自然・歴史・文化資源の豊かな風土を活かし農林業分野では、吉野葛に代表される食品産業、古くからの地場産業である皮革産業など、さまざまな産業が育ち発展してきました。

これらの状況を踏まえて交流人口については定住人口の拡大を目指し、「宇陀市観光基本計画」を策定しました。



(2) 本計画の位置付け・他計画との関係

本計画は、本市の最上位計画である総合計画の観光関連分野における個別計画として位置付けられ、本市の観光施策の全般について理念や方向性を定めるものです。総合計画を除き今後策定される各種の計画においては観光関連分野の取り組みについて本計画との整合性がはかれるべきものとなります。

観光関連施策は関係法令等により実施を義務づけたり、その枠組みを強固に制限されたりするものではなく、自治体に広範な裁量が認められるものであり、市民・事業者との幅広い連携も求められます。そのような観光関連施策を効率的・効果的な施策とするためにも本計画は重要な指針となります。

(3) 本計画期間の設定

計画期間 平成30年4月から平成35年3月まで

目指す数値と達成内容

観光者数160万人と関連推進事業の充実、及び新規関連事業の構築
外部関連有識者（宇陀市観光協会会長、宇陀商工会会長、学識者、金融機関等）による認定。

基本目標

- ①市民が多くの観光者を迎え入れるおもてなし力（ホスピタリティ）の向上
- ②交流人口の増加による地域の活性化がもたらす地域愛、郷土愛の醸成
- ③地域の交流人口の増加による経済効果、雇用の安定化と新規雇用の創出